

クラウド・アプリケーション開発のための5つの秘訣

Red Hat サイト信頼性エンジニアによる専門的なアドバイス

合計 250 万時間相当の経験を持つグローバルチームで構成された Red Hat® [サイト信頼性エンジニア](#) (SRE) チームは、Red Hat Cloud Services ソリューションの可観測性と信頼性のためにスケーラブルな自動化を設計および実装するエキスパートです。SRE のベストプラクティスを採用することで、企業はクラウドへの移行を最適化することができます。

1 重要なメトリクスを定義する

企業は、顧客の要求に適応し、進化するためのツールやテクノロジーを必要としています。そのため顧客のニーズを理解し、それが満たされているかどうかを判断するための手段を確立することが重要になります。

サービスレベル目標 (SLO) を定めることで、このプロセスの複雑性が緩和されます。SLO とは、API の可用性や Web ページのロード時間などを測定し、ユーザーエクスペリエンスの品質を定義する数値目標です。IT 部門とビジネス部門は SLO を利用して、成功を定義し、品質のギャップを発見し、リソースの優先順位付けを改善し、十分な情報に基づいた意思決定を行うことができます。

ビジネスにとって最も重要な SLO を計画して理解し、それを達成するために最適なクラウド導入方法を選択します。

- ▶ クラウド開発の目標や成功指標について、エンジニアリングチームとマーケティングチームの足並みは揃っていますか？
- ▶ チームは SLO 違反の意味を理解していますか？また、顧客に影響を与える問題においてエラーバジェットが枯渇した場合、何が優先されるかを理解していますか？
- ▶ アラートは、特定の既知の原因 (因果関係ベース) を対象とするのか、それとも何らかの根本的な原因 (症状ベース) を持つ、より高度な状態を対象としていますか？

2 労力を最小限に抑える

チームのパフォーマンスや納期に影響を与える前に、[煩雑な作業](#)を特定し、排除するための手段を講じましょう。チームメンバーから意見を集め、時間のかかる作業を明らかにします。手間がかかっても永続的な価値を生み出す作業なのか、それとも一時的に問題を解決するだけで、後から追加の労力が必要になるものなのかを見極めます。

労力の種類が特定できたら、それを自動化することで、チームがより効率的に働けるようにする方法を探します。

- ▶ エンジニアリングチームは、組織に価値をもたらすタスクに集中していますか？
- ▶ エンジニアリング・プロジェクトの進捗、サービスの拡張、新機能の立ち上げに予想以上の時間がかかっていませんか？

3 プロセスの棚卸しを行う

開発手法を継続的に評価し、必要なところには変更を加えることが重要です。

クラウドネイティブの実現に向けて、組織は今どういった位置にいるのかを見直してみましょう。これにより、どのクラウドプロジェクトに優先的に取り組むべきか、どのようにアプローチするのがベストなのかを判断することができます。DevOpsのプロセスを棚卸しして、現在または将来的に、残すべきものと変更する可能性があるものを判断します。

- ▶ 開発プロセスは、ハイブリッドクラウド環境に最適化されていますか？
- ▶ 組織全体で開発手法を継続的に改善するための、明確で一貫したプロセスがありますか？
- ▶ 継続的インテグレーション (CI) と継続的デプロイメント (CD) の手法とプロセスを使用して、開発フローの高速化を図っていますか？

4 アップデート戦略を立てる

ソフトウェアの更新時期を決めるには、さまざまな要因が関わってきます。アップデートを長期間回避すると、効率、パフォーマンス、セキュリティに悪影響を及ぼし、組織に新たなリスク要素が持ち込まれる可能性があります。

クラウド戦略を実施する際に、プラットフォームやアプリケーションを監視する担当者、アップデートを実施するプロセスを明確にしてください。可観測性と信頼性に専念する時間と専門性を確保し、定期的なパフォーマンス評価を実施することで、ビジネス価値を高めるプロジェクトにチームが集中できるようにします。

- ▶ ソフトウェアのアップグレード評価を定期的に行うためのリソースがありますか？

- ▶ ソフトウェアのアップデートをいつ、どのように管理するかを明確にするためのプロセスを導入していますか？
- ▶ 本番環境全体に展開する前に、変更やアップグレードが期待通りに機能することを確認するためのカナリア (ステージング) または A/B テストプロセスを用意していますか？

5 スノーフレークを避ける

スノーフレークは、1つの問題を迅速に解決することを目的とした、カスタマイズされた修正プログラムです。回避策が多すぎる環境は、かえって多くの労力を生むことになりかねません。スノーフレークはアプリケーションの開発速度を低下させる可能性があるため、なるべく使わないようにしましょう。

課題に対して個別に対応するのではなく、よりスムーズに目標に到達できる、拡張性のある自動化されたシステムの構築を目指します。自動化されたシステムは、組織がより速く、より信頼性の高いデプロイ方法で実行できるよう支援します。

- ▶ プラットフォームを維持するために、どれだけの手作業が必要ですか？
- ▶ そのソリューションの長期的なサポートへの影響や、技術的負債を増やすことにならないかを理解していますか？

必要とされる専門知識

Red Hat [サイト信頼性エンジニア](#)チームが、Red Hat クラスタや無料の Red Hat アプリケーションおよびデータサービスのデプロイメントと管理を自動化し、お客様が効率的で大規模なアプリケーション開発に集中できるよう支援する方法をご紹介します。



Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスを通じて、組織の環境全体の標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、保護、および管理を支援します。

f fb.com/RedHatJapan
t twitter.com/RedHatJapan
in linkedin.com/company/red-hat

アジア太平洋
+65 6490 4200
apac@redhat.com
オーストラリア
1 800 733 428
インド
+91 22 3987 8888

インドネシア
001 803 440 224
日本
0120 266 086
03 5798 8510
韓国
080 708 0880

マレーシア
1 800 812 678
ニュージーランド
0800 450 503
シンガポール
800 448 1430

中国
800 810 2100
香港
800 901 222
台湾
0800 666 052